

東京の観光振興を考える有識者会議  
議事録

令和4年8月2日（火）14：00～15：25  
都庁第一本庁舎7階大会議室

**【築田観光部長】**

お待たせいたしました。これより「東京の観光振興を考える有識者会議」を開会いたします。

本日は、御多忙にもかかわらず御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

私は、事務局を務めさせていただきます東京都産業労働局観光部長の築田と申します。

座長が選任されるまでの間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願い申し上げます。

次に、本日の委員の皆様の出欠状況について報告させていただきます。

本日は、委員15名中、11名の皆様に御出席いただいております。うち4名の皆様にはオンラインでの御参加をいただいております。出席者につきましては、座席表の配布をもって代えさせていただきます。

ここで、今年度から新たに御参加いただく委員を御紹介させていただきます。

一般財団法人運輸総合研究所理事長、東京大学公共政策大学院客員教授、佐藤善信様です。何とぞよろしくお願い申し上げます。

次に、資料の確認をさせていただきます。

お手元には、議事次第、座席表、資料1の委員名簿、資料2の本会議の設置要綱をお配りしております。また、資料3、資料4及び佐藤委員から御提出いただいたプレゼン資料は、卓上のタブレット端末やモニターで御覧いただきます。なお、佐藤委員のプレゼン資料の参考といたしまして「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」もお配りしております。さらに、本日は、委員の皆様からいただいた御意見を反映し、本年2月に策定いたしました「PRIME観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン」とそのポケット版をお配りしてございます。

オンラインで御参加の方には、事前に事務局より送付しております資料を御覧いただきますようお願い申し上げます。

それでは、次に、本会議の座長の選任を行いたいと思います。

お配りしております資料2、会議の設置要綱、第6の規定に「会議には座長を置き、委員の互選により選任する」「座長は、会議を代表し、会務を総理する」とございます。

どなたか座長の御推薦をお願いいたします。

玉井委員、お願いします。

**【玉井委員】**

それでは、観光に御造詣の深い佐藤委員を推薦します。

**【築田観光部長】**

ただいま、玉井委員より佐藤委員を座長にとの御推薦がございました。委員

の皆様、いかがでしょうか。

(「異議なし」と声あり)

**【築田観光部長】**

ありがとうございます。

それでは、佐藤委員に座長をお願いしたいと思います。

この後の議事進行につきましては、佐藤座長をお願いしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。

**【佐藤座長】**

ただいま座長に選任されました佐藤でございます。

この会議には今年度から新たに参加したばかりでありまして、いきなり座長というのはいささか荷が重い気がいたしますけれども、御指名でございますので何とか務めてまいりたいと考えております。

私は、昨年度まで座長を務めておられました本保さんと同じく国土交通省の出身であります。初代観光庁長官であられた本保さんと比べますと大きく見劣りいたしますけれども、委員の皆様のお協力を得て座長の任務を果たしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、会議を進行させていただきます。

初めに、小池知事から一言御挨拶をお願いいたします。

**【小池知事】**

小池でございます。

今日はもう40度を超えるような暑さの中、また、御多忙のところ、御出席を賜りまして誠にありがとうございます。

また、佐藤座長におかれましては、国交省時代にもいろいろと議員としてお世話になりました。ありがとうございます。このたび座長をお務めいただけるということで、大変心強く思っているところでございます。よろしくお願いいたします。

観光について、この長きにわたるコロナ禍においては、観光こそ一番厳しい状況に置かれた産業でございます。一方で、今、世界で最大の感染者数を出しているという日本ではありますけれども、しかしながら、その後のポストコロナ、そして、やはり今の円安を生かすという点では観光業というのは非常に大きなポテンシャルがあると、このように思っております。そういった観点も含めて、観光という大きなくりのみならず、このコロナにおける様々な課題もございまして、この後、佐藤座長からはプレゼンテーションもしていただけるということでございます。

そして、今、この暑さの中でHTTという、あちこち貼ってありますけれども、これは電力、省エネということでエネルギーを使うことを減らす、それから、太陽光などによってつくる、電力をつくる。そして、最後のTがためるという

ことで、頭文字といいたまうか、まとめてHTTと呼んでおります。こういったことも含めて環境に対しての大きなゲームチェンジをやっていかなければならないということも、この観光振興を考えるとということとはちょっと離れるかもしれませんが、やはり東京にお客様をお迎えするに当たっては、この問題、非常に大きなところでございます。

そして、話があっち行ったりこっち行ったりして恐縮なのですが、今年の5月に世界経済フォーラムが観光に関してのレポートを発表しました。2021年旅行・観光開発指数レポートと呼ばれるもので、こちらで日本が初めて世界1位を獲得したというレポートでございます。日本の観光資源というのは世界から評価されているわけで、訪日旅行への期待は極めて大きいものでございます。そういう中で、観光資源を将来に向けて一層磨き上げること、効果的に発信をしていくということが重要でございます。今日もCNNを見ておりましたら、「Tokyo Tokyo」の commercials で自然が素晴らしいですよといったような内容で伝えて、世界にどうやって伝えていくかということも一つコミュニケーションの仕方として考えるべきテーマだと思います。

今日はお手元に昨年行った会議をまとめたもので東京の観光実行プラン、PRIME観光都市・東京の改定、こちらにまとめてありますけれども、改定に向けて皆様方に御議論いただいた。今日は、その内容を踏まえて、今年の2月に新たなプランを公表しているわけでございますけれども、その取組をしっかりと推進していく。それから、時代の流れを捉えて次なる手も着実に講じていく。盛りだくさんのテーマではございますけれども、いずれにしましても、東京の魅力内外ともにいかに伝えていくのか。そして、多くの観光の方々に東京にお越しいただけるように、そのプランについて、また、そのバージョンアップについて皆様方からの御意見を賜ればと、このように存じます。

今日、ちょっと円安ではないのですかね。アトキンソンさん、為替はどうなるのですか。

#### 【アトキンソン委員】

為替、130円前後で、これですと安定するのではないかということをおっしゃっているのですが、重要なポイントは、実際の観光客の誘致と為替との相関関係はほとんどないのです。ですから、フォローだとよく言われるのですが、これが大きな間違いで、やはり魅力的な観光資源があるかどうかが一番で、円安になることによって何がよくなるかということ、例えばアメリカ人で日本に行きたい、予算としては2,000ドル、持っている。それで100円の場合は20万円を日本国内で使うことになりまして、130円になると26万円を使うことになりまして国内に落ちる金額が増える。人が増えるかどうかというのはクエスチョンマークということなので、稼ぐためには、それは追い風が吹くという感じなのですけれども、誘客がどうかというのはそんなに変わるわけで

はない。

これを考える必要があります。今までここに書いてありますように、もうとにもかくにもインフラ設備投資をすることによってさらに人に来てもらって、円安の効果でさらに経済効果が膨らんでいく、そういうような考え方が正しいのではないかと思います。

#### 【小池知事】

ありがとうございます。御挨拶だけのつもりだったのですがけれども、せっかくアトキンソンさんがいらっしゃるので、御見解、ありがとうございます。

要は、いかにしてやはり日本の東京の魅力を増していくかという、もうそこが原点だということだと思います。ありがとうございます。

どうぞ本日の会議、実り多きものとなりますようによろしくお願いを申し上げます。ありがとうございます。

オンラインで御参加の方々も本当にありがとうございます。

#### 【佐藤座長】

知事、どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議の進め方について、簡単に御説明をいたします。

本日は、まず事務局から資料の説明をいただき、その後、私から本日のテーマに関連するプレゼンテーションを行わせていただきます。その後、本日のテーマである環境や文化に配慮した観光の推進につきまして委員の皆様へ御議論いただきたいと思います。

それでは、まず事務局より、資料説明をお願いいたします。

資料は事前にお配りして委員の皆様へお目通しいただいているということですので、ポイントを絞って御説明願えればと思います。

#### 【天津観光振興担当部長】

それでは、資料3を御覧ください。

今回のテーマ「環境や文化に配慮した観光の推進について」の資料でございます。

1 ページです。

本有識者会議についてですが、昨年度、令和3年度は「PRIME観光都市・東京東京都観光産業振興実行プラン」の改定に向けて御議論いただき、今年2月に新たなプランを公表したところでございます。そして、今年度、4年度につきましては、次期プランの策定も視野に中長期的な視点から、今後の観光振興について幅広く御意見をいただきたく存じます。今年度は、本日を含め2回の開催を予定しており、いただいた御意見を参考に来年度の予算において施策をバージョンアップしてまいります。

2 ページです。

環境に配慮した観光の推進についての都の取組です。

都では、環境に配慮した観光を推進するとともに、中長期的にエネルギーの安定確保につなげる観点から「Tokyo Tokyo」のPRアイコンも活用してHTTを推進しております。

右側にあります今年4月末に開催した「Tokyo Cool Home & Biz」では、コレクションに小池知事にも参加いただき、HTT、電力を減らす・つくる・ためるを発信し、節電アクションの加速を呼びかけました。そのほか、サステナブルツーリズムの推進では、環境配慮型旅行などを実施しますとともに、世界自然遺産を活用した観光振興にも取り組んでまいります。

また、右側下にごございます持続可能な観光振興に向けた調査は、今年の5月から6月にかけて都内宿泊事業者の環境対策への意識や取組状況を調べたものでございます。

3 ページはアンケート調査結果の概要です。

都内の約4,200の宿泊施設を対象に調査を行い、460の施設から回答をいただきました。環境対策への意識では85%が「非常に重要である」「重要である」と回答しております。環境対策の課題では、資金、ノウハウ、人材の不足が上位となっております。

4 ページです。

4月から新たに施行となったプラスチック資源循環促進法に関しまして、事業者が規制対象となっているかについての調査では、約20%が「該当している」と回答いたしました。プラスチック排出を抑制するための具体的な取組としては、アメニティの使用確認、原材料の種類の変更が上位となりました。

5 ページです。

廃棄物削減の取組ではごみの分別、ペーパーレス化の取組など、節水の取組では連泊者のシーツ交換削減に向けた協力など、エネルギー対策の取組ではLED照明の導入など、フードロスの取組では個別配膳、持ち帰り対応などが上位となりました。

6 ページです。

ここからは、文化資源の保全・活用についての都の取組です。都内の貴重な観光資源の喪失を防ぐための支援や文化の魅力を効果的に発信する取組などを実施いたします。左側は、観光資源の保全のための支援として、クラウドファンディングを活用した資金調達を支援するための手数料の助成、また、観光資源の保全等のための経費の補助を実施いたします。

右側は、日本文化を活用した観光振興支援として、文化と地域資源を結びつけたイベントなどを支援してまいります。

7 ページです。

東京の食の魅力発信として、今年5月に有明地区におきまして春の食フェスティバル「Tokyo Tokyo Delicious Museum」を初めて開催しました。多くの方

に御来場いただくとともに、東京の食文化に関する記事を発信しました。

右側は、ハイブリッド形式の国際会議が増えていることを踏まえ、オンラインでも体験できるSDGsに関連した風呂敷包み体験などを国際会議参加者向けコンテンツとして開発し、PRしているものです。

8 ページです。

ここからは東京以外での取組事例の紹介です。環境についてのシンガポールの取組事例です。シンガポール政府観光局は「ツーリズム・サステナビリティプログラム」を2021年に策定しました。今年の3月にプログラムの一つとして目標と戦略を掲げたホテルに関するロードマップを発表しています。

9 ページです。

文化についての取組事例として、歴史的建造物や文化財の活用による観光振興や文化資源の保全への取組の紹介です。左側は台湾、台北市の「剥皮寮歴史地区」がロケ地や展示会として活用されている例、右側は兵庫県の重要有形文化財「三木家住宅」の蔵や離れが宿泊施設として活用されている例でございます。

簡単ではございますが、以上で説明を終わらせていただきます。こうした事例等を参考に本日は御議論いただければと存じます。

事務局からは以上です。

#### 【佐藤座長】

どうもありがとうございました。

次に、プレゼンテーションに入ります。

会場のモニターやお手元のタブレット端末を御覧になりながら説明をお聞き願えればと思います。

それでは、私から「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」について御説明をいたします。

私に与えられた時間は5分ということでありましてけれども、まず最初に、一言、自己紹介をさせていただきます。

先ほども申し上げましたが、私は国土交通省の出身で、在職中は二度、観光関係の仕事に携わりました。一度目は観光庁が2008年10月に発足する直前、2007年から2008年にかけて、後に初代観光庁長官となった本保さんの下で観光庁の立ち上げ作業に携わりました。二度目は、インバウンドが初めて1000万人を突破した2013年から翌年にかけて、観光庁次長を務めました。このとき、当時、衆議院議員であられた小池知事にハラル関係の有識者を御紹介いただくなど、大変お世話になったと記憶しております。現在は、交通、観光関係のシンクタンクであります一般財団法人運輸総合研究所と東京大学公共政策大学院の交通・観光政策研究ユニットで活動しております。

本日は、運輸総合研究所の研究成果でもあります「観光を活用した持続可能

な地域経営の手引き」について紹介させていただきます。

それでは、次のスライドをお願いします。

観光を活用した持続可能な地域経営の重要性につきましては、昨年度の第2回会議におきまして矢ヶ崎委員からプレゼンテーションがあったところでありますけれども、運輸総合研究所では、2020年度から昨年度まで、前座長の本保さんや矢ヶ崎委員にも御参画いただいて、観光を活用した持続可能な地域経営に関する研究を実施いたしました。

そして、その成果として、観光庁及び国連世界観光機関（UNWTO）駐日事務所との共同作業で、この「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」を作成し、本年3月に公表いたしました。本日は、事務局にお願いをしてお手元にその写しを配布させていただいております。

この手引きは、観光を活用した持続可能な地域経営のための実践的なマニュアルであり、観光庁が2020年に公表した「日本版持続可能な観光ガイドライン」（JSTS-D）と相まって活用していただくように作成をされています。

次のページをお願いいたします。

ここからは、その手引きの中から、私が特に気に入っている部分を抜粋してまいりました。このページでは2つ目の●（黒丸）にあります「持続可能な地域経営」の第一歩は「地域のなりたい姿」を議論・共有することから始まりませ、というところがポイントだと思っております。観光はあくまで手段です。地域のなりたい姿を実現することが究極の目的であり、それに向かって地域の課題を解決していくに当たり、観光を一つの切り口、手段として活用することが観光を活用した持続可能な地域経営のポイントだと思います。

次のページをお願いいたします。

まず、今、申し上げましたように地域のなりたい姿を明確にする。次に、その地域のなりたい姿に向かって解決すべき課題を抽出する。次に、課題を解決するための取組を検討し、実施する。同時に、取組を評価するための指標を設定し、計測、分析を行う。次に、評価の結果を取組の改善や指標そのものの改善につなげる。このようにPDCAサイクルを回すことが持続可能な地域経営のポイントだと思います。そして、観光は課題を解決するための取組において重要な切り口、手段となり得るものだと思います。

次のページをお願いいたします。

ここまで紹介してまいりました「観光を活用した持続可能な地域経営の手引き」は、運輸総合研究所のホームページからどなたでもダウンロードすることができます。この手引きが広く活用されることを期待しております。

私からの説明は以上であります。御清聴ありがとうございました。

さて、会議途中ではございますが、ここで、小池知事は公務のため、退席されます。

**【小池知事】**

どうもありがとうございました。よろしく願いいたします。

(小池知事退室)

**【佐藤座長】**

それでは、本日のテーマである環境や文化に配慮した観光の推進についての議論に入りたいと思います。

本日のテーマに関する御意見のほか、先ほどの事務局の資料説明や私のプレゼンテーションに対する質問など、皆様から御発言をいただきたいと思います。

まず、本日御欠席の委員の方々から事前にコメントを頂いておりますので、事務局より御紹介をお願いいたします。

**【天津観光振興担当部長】**

それでは、資料4を御覧ください。

まずは田川委員の御意見からでございます。

環境や文化はSDGsの基本であり、DXを含めて生活の基本。環境や文化に配慮することが目的となつてはならず、どのように活用していくか手段として考えていくことが重要。

今後は、環境・文化・DXなど、観光に必要なSDGsを議論し、将来像を検討することが必要、といった御意見をいただきました。

次に、星野委員です。

星野リゾートが行った調査では、直近、宿泊時に歯ブラシを持参している人が4割を超えていた。宿泊施設における環境対策は事業者だけで解決するのではなく、消費者にも協力してもらうことが重要。

サステナビリティ認証は取得自体が重要なのではなく、具体的な数値目標を持った上で環境対策を進められているかが重要、といった御意見をいただきました。

牧野委員からです。

宿泊施設の環境対策について、都として明確な目標を決めて国内外に都の魅力としてプロモーションしていくことが重要。

都の文化施設はユニークベニューとして活用できている印象。台湾の事例のように古い町並みを残すためには、個々の観光・文化資源に限らず、エリアで取り組むことが大事、といった御意見をいただきました。

最後に、矢ヶ崎委員からです。

宿泊施設の環境配慮に関する目標を立てるなど、体制を整えた上でロードマップを作成できるとよい。MICEに係る取組の成果も大きいため、MICEのロードマップもセットで打ち出すことが必要。

文化や環境を全て観光に結びつけるのは難しいため、観光の立ち位置を整理した上で施策を行うことが必要、といった御意見をいただきました。

欠席されている委員からの御意見の紹介は以上でございます。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、皆様から御意見をいただきたいと思えます。

御発言を希望される方は挙手をお願いいたします。御発言はお一人3分程度でお願いいたします。

御発言される際は卓上マイクのボタンをオンにいただき、御発言が終わりましたらオフにしていだければと思えます。

また、オンラインで参加の委員の皆様は手を挙げてお知らせください。御発言をされる際以外はミュートにさせていただきますようお願いいたします。

それでは、御発言を希望される方は挙手をお願いいたします。

それでは、玉井委員、よろしく申し上げます。

#### 【玉井委員】

佐藤委員、それから、事務局の御説明、ありがとうございました。

新たなスタートということですので、私はちょっと視点を変えまして、安心・安全という視点でお話をしたいと思えます。

今、観光庁さんではアフターコロナ時代の観光をどうするかということで大きな検討会をやりました。それを基に、総額1000億という地方の観光創生に対する補助事業をやっていますが、その際のキーワードが地域一体という概念です。ピンポイントで一施設なり一事業単位を幾ら補助しても、多分これだけ疲弊した状況は変えられないだろう。先ほど佐藤委員のほうからもございましたけれども、その地域どうしたいのだということの中でピンポイントの施設なり事業をバックアップするということはオーケーだけれども、単純にピンポイントの補助だけではもう無理だということです。

この地域一体に関しては幾つかキーワードがあります。これは、一つは今日のテーマであるSDGsであり、そしてDX、更には地方の旅館業務ですと人材育成開発というようなことが非常に重要なポイントになってきます。これはトータルのにはそういうことを個々に検討していかなければいけないのですが、今後、日本が観光立国として世界に発信する一番のキーワードは、やはり安心・安全だと、これがまず大前提にあって、今、言ったSDGsからDXとか、あるいは人材の問題を議論していかななくてはならないのだろうなと思っております。

日本は安心・安全な観光国です、あるいは東京ですと幾ら言葉で言っても駄目なわけで、一番重要なのは、どのように安全にするか、ということ为先ほど資料の御説明がありましたように、数値化あるいは指標化をして“見える化”していく、これが非常に重要です。

一例として、観光庁で持続可能な観光に係る品質認証のラベルインデックスというのをまとめられています。御覧になった方もいらっしゃると思うのです。

が、これを見ると、幾つかの項目、例えば観光地、観光資源、宿泊施設、旅行者あるいは飲食、レストラン、そしてガイドなんていう視点もありますし、脱炭素の取組に分類し、世界でどういう認証基準制度があるかというのを整理されています。この中でも特に世界が認めたGSTC基準に合致した認証制度の取得に関しては積極的に観光庁さんもバックアップしましょうよと言っています。

日本全体の宿泊施設というのはこれだけ安心・安全ですよということを格付とは全く違う形で、あくまで安心・安全の品質認証をきちっとする。ぜひ東京都さんで全ての宿泊施設に対して積極的に認証取得をバックアップしていただきたいと思います。そうすると、これは世界に発信ができるわけですね。GSTCが認証した基準できちっとそういう審査をしていますよということになります。これは今、Googleの「エコ認定ラベル」にも乗せて世界に発信していこうと考えています。ですから、そういう意味で見える化、ただ単純に安心・安全ですよというだけではなくて、個々の項目に対して世界が認証した基準できちっと認証基準を取っていく、これの積み重ねがやはり世界に対して信頼を得た観光立国になっていくのだらうなというように思っております。

観光立国宣言では”住んでよし、訪れてよし”という非常にすばらしいキャッチフレーズがあるのですけれども、コロナ前までは訪れてよしという言い方に関してはかなり成功したというか、うまくいったのだらうなと。ただ、もう一方で、住んでよしという視点がやはりちょっと足りなかった。そういう点からいくと、観光客だけではなく地域住民にとっても安心・安全だという基準をきちっとクリアしていく、そういう品質認証を積み重ねていく努力をぜひ行政の側も積極的に応援をしていただきたいと思います。

そのためには、何度も申し上げますけれども、やはりインナーマーケティング、地域住民の皆さん、都民の皆さんに、観光はだから必要ですよということをきちっと説明していく。これがある意味で地域一体という概念につながっていくのだらうと。

さらに言うと、大変僭越な言い方になるかもしれませんが、日本社会の中で観光という概念をきちっとしていくためには、社会的共通資本という概念がありますけれども、観光をその社会資本の一つにするような社会認識ができていけば、それこそ真の観光立国になっていくのではないかなと思っております。そういう意味で、安心・安全の見える化をしていくということが非常に重要なのだらうなと思っております。

以上です。ありがとうございました。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

ほかにどなたか。

では、田中委員、お願いいたします。

## 【田中委員】

事前の御説明等も含んで、ありがとうございます。私からは3点ほど、資料に基づいてコメントをさせていただければと思います。

今回のテーマが環境、文化を生かすということで、この環境、文化というのはその土地固有のものであり、個人にとっても社会にとっても、これを発見して享受して学習をして体験をするということが恐らくウェルビーイングにつながったり、暮らしや生活の充実につながって、ひいては幸福感も得ることができるということになります。これを観光、旅に生かせば、観光全体の価値や意味合いも今後変わってくるようなプロモートになるということのを再認識できればと考えました。

先ほど、円安に関する言及がありましたけれども、よいものが日本の知恵、東京の知恵でお得に体験できるというようなプレゼンスを向上させることができるタイミングと想像しました。その中で、環境・文化のコンテンツにはどのようなものがあるか、ということなのですけれども、昨年度もサステナブルなツーリズムのアイデアを随分広げて今、アピールされた中で、東京でしか体験できないことというのは私自身も考えてみると、本当に素晴らしい文化、自然、伝統、芸術があります。東京には特に上場企業、グローバル企業、優良な中小企業がたくさんありますので、このような企業にもっと観光の中に参加をしてもらってはどうかということを感じました。

産業界はMICEに目が行き、一般的な観光とはちょっと線引き、垣根があるのですけれども、例えば今、企業はサステナブル、SDGsの活動に随分力を入れていきますし、企業の枠を超えて自治体との連携や、また、お子さんたちへの環境教育をはじめ色々なことに乗り出していますので、東京体験イコール外から来られた観光に来られた方の大人のインターンシップみたいなことができるのではないかと、そのような立てつけもできるのではないかと考えています。SDGsに取り組む企業の活動自体が旅に来られた観光を切り口にした方との接点によってそれがメニューの一つになるというような一石二鳥の考えもあるかというように思いますので、それができると面白いかなと想像しています。

また、都立高校や都内の高校、中学、小学校とか、あと都内の大学とかも随分多彩なサステナブルな活動を実践していますので、これも企業と同様に観光との接点を発掘、顕在化してアピールすると有効です。昨今では、社会人がリカレントとかリワークに関心を持ち、取り組んでいますけれども、世界中の人のリカレントとかリワークにも貢献できるような、そういう旅のメニューが出来上がるのではないかと考えています。

また、ずっと取り組んでこられている食のマーケット、あと手を打って成功してきたオーセンティック東京の取組、富裕層の対応等、この辺りはまたバージョンアップしていくべきではないかと思っています。

そして、最後、1点は、佐藤座長に先ほど御説明いただいた、「観光はサステナブルな地域経営そのものである」という切り口には大変賛同するところで、貴重な資料も頂きましたので、ぜひまたヒントを頂ければと思っています。

観光はそもそも地域の人と訪問する人、多様な人の間でコミュニケーションが生まれる装置にもなりますので、ここには新しいビジネスチャンスがあって、地域の新サービスや商品開発もここから生まれてきます。同時に人材育成にもなるというような、そういう要素が多々盛り込まれるように思いますので、東京がリーダーシップを取って、また、地域の活性化もそこから牽引されることを期待します。東京と地域をつなぐ観光のメニューも構築されていて既に存在しますので、より地域の人々の視点が観光産業に直接関わり強化される、あるいは間接的に関わる人々の生活の豊かさまで担保できるというような取組が生まれると良いと思っています。よろしく願いいたします。

**【佐藤座長】**

ありがとうございました。

次はいかがでしょうか。

オンラインで小巻委員、お願いいたします。

**【小巻委員】**

はじめまして、小巻でございます。本日、よろしく願いいたします。

ここまでの事務局の皆さんの発表と佐藤座長の発表、そして、今の田中委員の発表を伺いまして、今、発言をさせていただこうかなというように思いました。と申しますのも、私ども、今、テーマパークを経営しておりますけれども、ちょうど昨日から子供たちのSDGsをテーマにしたサマースクールを始めております。これをやりながら今回の会議のこともちょっと念頭に置きながら、いろいろとこれが観光の資源になり得るかなというような視点でも組み立ててみたり、あるいはフィードバックをしたりということを繰り返しているのですけれども、まさにサステナブルということは当然次世代という視点がすごく強く入ってきていると思います。

コンテンツとして、対象としての次世代、子供たちという部分と、今、田中委員のほうからありましたけれども、企業がどんなSDGsの学びを提供し、あるいは自分たちも学べるのかというところの産官民学といったような取組の一つの事例としても、この教育という切り口が一つ、昨年、かなりMICEということでもいろいろなディスカッションがなされたと思うのですが、これは一つ、例えば教育でいうと北欧にたくさん教育的な視察に随分多くの方が日本からも行かれますが、SDGsをフックにした産官民学の教育プログラムというようなことも、あるいは一つのコンテンツになり得るかなというように思っております。

子供たち、本当に小学校3年生から6年生までが今、参加して下さっているのですけれども、テーマ、SDGsということで、ジグソー方式といういろいろ

と新しい教育プログラムのデザインなんかも取り入れながら、かなり深い学びが起こっているのを見て感動すら覚えたのですが、自分たちがSDGsをまず知る、知っていることは何かをお互いに発表をし、そして、優先順位を考えてみるということで、みんなどれも大事だよねということで、非常にそこでいい意味の混乱が起きていました。その中で最終的には、自分たちの地域では例えば水がないだったりとか、学校がないということはないけれども、もっともっと例えば差別とか、いじめをなくそうとか、電気を大切にしようとか、ごみを分別しようとか、子供たちなりのアクションプランまでしっかりとつくり上げている様子が昨日でした。

そして、本日は、今、まさに英語のプログラムと表現力というものを子供たちはやっているのですけれども、プレゼンテーション、いろいろな方が視察をしたり、みんなに発表できるような、そんな力もつけようねということで表現力をやっております。

この後はプログラミングで、まさにデジタル世代ですので、プログラミングで社会に貢献できる何かをつくってみようというようなこともやっております。一連のプログラムは御紹介するとちょっと切りがなくなりますのでこの辺りにしますけれども、このサマースクールを通して、まさにサステナブルというところで次世代、そして、企業、私どもは教育機関ではないのですが、企業が何をできるかというところと、私どもサンリオグループだけではなくて、学習塾であったり地元の建設会社だったりいろいろなところが自分たちの持っているアセットをそこで提供してくれてということで一つのサマースクールが出来上がっています。

こういった取組ができますのも、多摩という地域ですので自然もある程度ありまして、自然学習もできる状況ですので、そんな事例として一つつくり上げたいなというように思っていることを通して、人材育成、サステナブルとかダイバーシティー・アンド・インクルージョンの基になるような、いろいろな地域からの子供たちが参加して、いろいろな学年のいろいろな考えを持った子供たちがそこで1週間、共にすることによって、ダイバーシティーのベースとなるような考え方やコミュニケーションの取り方を学ぶといったようなことを見ておりますと、これは一つの、こういったことはやはり東京ならではの企業といろいろな今日も北海道からの参加のお子さんもいらっしゃるのですけれども、安心・安全という面でも行き届いたある意味の教育のプログラムというものが一つ観光資源になり得るかなというように思っております。

文化という意味では、伝統文化ではありませんけれども、そういったキャラクターの文化など、今後の次世代に向けてアピールできそうなこともたくさん、サンリオのみならず、いろいろアンパンマンだったりとかポケモンだったり、世界にアピールできるソフトコンテンツもたくさんある東京ですので、何かそ

ういったプログラムを通して、ぜひ観光、環境や文化に配慮した観光推進という一つの切り口としてやはり教育という部分があるかなというように思った次第でございます。聞いていただきましてありがとうございます。

以上でございます。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

次は、オンラインで挙手されておられます伊達委員、お願いいたします。

#### 【伊達委員】

ありがとうございます。

本日のテーマで持続可能な観光を活用した地域経営だと思いますが、そのためには、何をどのようにするのか、そして、それをどうブランディングして観光の活性化につなげていくのか考える必要があります。そのためには、一つは居住者、事業者、来訪者、その3方向から取り組み方、進め方を検証する必要があります。

一方で、観光という切り口のみで見えていますが、地域の経営という観点から見ると、観光という側面だけでなく都市として持続可能な地域、環境の在り方を考え、対策を練っていくことも必要ではないでしょうか。つまり、観光だけの問題ではないということです。そういう意味で、佐藤座長の都市のなりたい姿の議論というのは、東京都の環境を踏まえた地域経済の在り方、全てに結びついていくというように思っています。

カリフォルニアの事例ですが、もう何十年も前からだと思いますけれども、節電対応している住宅は減税されるであるとか、もしくはハイウェイで通勤する方が多いわけですが、コロナの中でどの程度なのか分かりませんが、渋滞や排気ガスの課題があるため、1人乗りの車と複数人が乗る車とでは、走れるレーンが変わる制度があります。複数の方が乗り合ってハイウェイを使った場合には、ファストパスのように通れるレーンがあり、そこが空いているというインセンティブが働き、同乗者を募って通勤するようになるそうです。

つまり、生活の中でそれぞれの環境に対する意識を向上させるとともに、生活習慣を変えるためにいろいろなインセンティブを用意しながら機運を高めている。そして、エネルギーの排出を抑えていくのです。東京都としてどのような数字を目指し、そしてそれを実現するためのインセンティブを用意し、生活者を巻き込んでいくかというのもテーマではないかなというように思います。それが居住者の視点です。

観光の場合は、来訪者の方がどのような意識でいるのか、となります。昨今、アメニティは減プラスチックということで、各事業所、事業者がプラスチックの少ないものに変更していく必要があるわけですがけれども、本来であれば、そもそもごみそのものが減るほうがよいわけです。なぜホテルにアメニティがそ

ここまで用意されなければいけないのか東京都で一石投じてみてはどうでしょうか。

実は、皆さんも出張されたり海外に行ったときに御存じだと思いますけれども、欧米の場合は、ほとんどのホテルでアメニティがほぼありません。しかし、日本を含めアジアの場合は、どのようなブランドでも複数のアメニティを競争のように置くという状況にあります。それは事業者側の判断でなかなか止めにくい部分もありますから、例えば東京都では、ホテルのアメニティを環境のために廃止する条例を作ることで、大きく変わってくるのではないかなというように思います。これはエコバッグの在り方、レジ袋を有料化することによってエコバッグの比率が増えてきたということに似ていると思います。強制的ではありませんが、そこまですれば、お互いの意識は変わってくるのではないかなというように思います。

最後に、ブランディングというのは本当に必要だと思っています。やはり都市としてどのぐらいの取組をし、事業者としてどのぐらいの取組をし、そして、参加者としてもどういった取組をするのかというものを発信し続けること。そして、ほかの委員の方もおっしゃっているように、その品質の認証というものをでき得る限り取っていくということというのが当然必要であると、そのように思っています。

以上です。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

今、御指摘のアメニティバーにつきましては、先ほど事務局から説明のあった資料の中にアメニティバーを設置して必要分のみ宿泊者へ提供するだとか、アメニティの提供を廃止して宿泊者の持参を呼びかけている、そういったことも既に実行されておられる施設があるとありましたね。

#### 【伊達委員】

もちろん事業者としてはそういうこともできるでしょうけれども、例えばエコバッグは呼びかけてもさほど増えなかったものが、レジ袋の有料化になった瞬間、エコバック持参が一般化しました。アメニティ設置禁止が制度化されれば、各事業者が実行します。そもそもラグジュアリーなホテルを東京にも増やしていくべきだということが考えとしてあると思いますが、その場合にはフルアメニティが用意されているというのが当然であると考えてしまうのが、お客様の立場だと思います。したがってホテルとして、一切置きませんということが言えるかというとなかなか言いにくい。よって、呼びかけるというレベルになってしまうということだと思います。

星野さんの事例のように4割の方がお持ちになっているというのは大変すばらしいことだと思いますけれども、そのようなムーブメントを起こすために、

行政として、どのようにすればいいのかというのをもう少し考えていただいてもよろしいのではないかと、そういう意見になります。

現実には、事業者は減プラスチックの義務を負う、事業者に努力義務がある、ことが多いのです。それだけではなくて、都として環境に対する姿勢を明確にし、それに応じて例えばアメニティ設置禁止などの条例や制度を策定すれば、事業者も実行しやすくなりますし、消費者も社会的な意義や意図を意識しやすくなり、と理解していただきやすくなるのではないかとということです。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

次は、オンラインで石井委員、お願いいたします。

#### 【石井委員】

事務局の皆様、座長、そして、委員の皆様、いろいろと大変参考になる御発言とご発表、ありがとうございます。

実は私、今、出張でスペインにいます。スペインでホテルの中の一施設を使っておりまして、その会議室をお借りして、その中で、今、伊達委員からの話を伺いながら非常に身近に感じたことから、すみません、お話しさせていただくのですが、事業者がこうすべきであるという指針が多いという御指摘、確かにそのとおりだと思います。今、私、泊まっている五つ星のホテルになりますけれども、アメニティがほとんどないというのは本当でございまして、また、欧米に限らず中近東ですとかいろいろなホテルに泊まってみると、アメニティがあること自体が既にハズビーン、ちょっと環境的な配慮として遅れているというような意識が一般のお客様の中にも非常に芽生えているというのを感じます。ですので、逆にアメニティがたくさんそろっているようなホテルというのは環境に配慮していない、ちょっと遅れているという、そういう意識が高まっているというのが実情ではないかと思えます。

そういう意味で、私の専門にしております照明、夜間景観整備、ナイトライフというようなくくりからも申しますと、先ほど御説明をいただいた資料の中で事業者の皆様がLEDに変えて非常に満足しているということが評価されておりましたが、LEDに変えたからよいわけではございませんで、また、LEDに変えることによって出てしまう障害というのにも意識していただく必要があると思えます。

例えば今、御覧になって私の顔、非常にひどい照明状態になっていると思えますが、これはこちらのちゃんとした施設のホテルの会議室を借りているにもかかわらず、こういうオンラインのミーティングのときに顔がきれいに照らせないような照明にしかなくていい。これはやはりLEDにして満足していることの一つの現象のよくあるパターンでございまして、環境に配慮しているから質をコンプロマイズ、質を妥協してしまうというような傾向がある。これは非常

に残念なことで、これから富裕層を含めた観光者、観光の来訪者を呼びたい、特にMICEみたいなことに注目する場合は、質ということにもっと固執して、もっと注目して整備を進めていくべきではないかというように思います。

その流れからいきますと、先ほど知事からもお話のありましたHTT、電力を減らす、つくる、ためる、大変結構なことだと思いますし、私も賛同し、照明デザイナーとしては日頃、同様の動向に尽力するようにはしておりますけれども、まず最初に減らすということが来るとどうしても皆さんが、クールビズのときもそうでしたが、エアコンの温度を高くして我慢する。それから、照明もなるべく消して暗いけれども、我慢するというような何か我慢というのが非常に日本人の気質として高くなってしまいう傾向がある。そうではなくて、つくって、ためて、きれいに使って、賢く使って、結果、減らすというような、そういうマインドセッティングをプロモーションすることも非常に大切ではないかと思えます。どうしても皆さん、減らすことによって質が落ちる、それから、我慢をしなければいけない、すごく嫌な思いをするというようなことが伴うのではやはり長続きしない。そういう意味では、サステナビリティという概念からちょっと反するのではないかというように思います。

そういう意味で、私どもが日頃実行しております都市照明のプロジェクトでは、欧米ではもう必ずまず都市の開発、再開発をするときに、ただ、照明、街路灯をきれいにしましょうとかというだけではなくて、イベントをどうやって組み込んでいこうとか、それから、観光という視点をどういうように最初から組み込んでいくか。それとともに、環境についても必ず配慮するようというところがもう応募要項にきちんと書いて明記してあります。そういうような後づけではない環境整備のやり方というのをもっと都としては進めていかれるとさらによくなるのではないかと思います。

あと最後にもう一点、長くなってすみません。安心・安全という御指摘が玉井委員から先ほどございました。先立ての元首相が銃殺されるという事件について、海外におりますと非常に日本が今まで安全な国であったという、安全大国であったという、観光的に非常に大切なステータスになるわけですが、それが非常に脅かされているというのを感じます。私自身も非常に危機を感じていまして、安全な国だと言われていたはずなのにあんなことが起きる、イコールもう安全な国ではないというレッテルが1回貼られてしまうと、それを外するのは非常に大変な作業になるわけですね。そういうところのもっと危機感というか、手だてというものを先ほどの世界的な認証を取って、世界に発信すべきだという御指摘、まさにそのとおりだというように感じました。1つ課題が増えたというような認識で取り組まれるべきではないかと拝察しております。長くなって失礼をいたしました。ありがとうございます。

**【佐藤座長】**

ありがとうございました。

次は、先ほど手を挙げておられました滝委員、お願いいたします。

#### 【滝委員】

いろいろな参考になる話を聞かせていただきありがとうございました。自分の仕事の関係から、情報コンテンツに関して少し意見を言わせていただきたいと思います。

IT時代になって、情報の量というのはもう大変な、あふれるばかりに充実しているというか、大量な量が排出されているわけですがけれども、旅行する人にとっての情報の信頼性という意味では非常に心配な要素も増えている時代になってきていると思うのです。東京はもう世界一、いろいろな意味で実質的に魅力を持った都市に間違いのないと思います。今こそ都民参加といいますか、今日ではさまざまなコミュニティーも数多くできていますし、そういう東京に愛のある人たちに参加してもらう形の中でもう一遍、情報面において東京の観光都市としての魅力、コンテンツを充実する、確立するということがちょうどいい時期に来ているのではないかなと。そういう意味で、都民参加の情報の充実ということに関して行政側からの応援の声を発信するというのもとても大事ではないのかなと、このように思っております。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

それでは、根木委員、お願いいたします。

#### 【根木委員】

根木です。よろしく申し上げます。

先ほどから各委員さんのお話を聞かせてもらって、本当にそのとおりでなと思いました。玉井委員さんの安心・安全であったりとか、田中委員のサステナビリティの企業の取組というものをしっかりと体験であったりとかということもなるほどなというように思ったし、子供たちの体験、夏休みの企画ということもそうだと思うのですけれども、私も全く同じものを感じています。

私ごとになってしまうかもしれないのですけれども、去年、パラリンピックでは大会の中心で私も動かさせていただいて、今日もいろいろな委員さんからパラリンピック、よかったよねというのを言っていただきました。これは私、すごく多くの方に言われるので、何がよかったかなということを考えると、当初は障害者の人たちが頑張っているよね、すごいよねと、障害者の方々にとってよかった、いいものだというような考え方からスタートしたと思うのですけれども、実はパラリンピックのゴールというのは、パラリンピックムーブメントを通じてインクルーシブな社会の創出、共生社会を実現するというのがパラリンピックの大会のゴールなのですよね。

大会自体のコンセプトの一つになった多様性と調和というものがあって、恐らく本当に今日も皆さんがパラリンピック、よかったよねというのは、この大会を通じて共生社会、ダイバーシティであったりとかインクルージョンというものの大きく意識が高まってそれが動き出したなど、だから、パラリンピックの大会があってよかったのかなというようにみんなが、その意味もあって多くの人たちに声をかけていただいているのかなというように思っています。

その部分でいくと、まさしく、もう東京というところはすばらしい大会のあった開催地なのですよね。建物も残っているし、建物だけではなくて、そこにレガシーとしての考え方がそこで東京大会、東京で生まれたというものを体験するのであったりとか、実は競技の体験でもいいと思うのですが、そのパラリンピックの競技を体験するというのは、その競技が面白いからでなくて、そこから共生社会であったりとか、まさしくSDGsの考え方の中を体験できるというものが新たに今までと違う視点で生まれてきているのかなというように思うので、すごいふわっとした言い方になると思うのですが、そういうものが実は東京の強みに去年の大会から大きく変わったものであると思うので、こういうものをいろいろな中に入れていくというのは東京にとってのいいアピールポイントになるのかなというように思います。

以上です。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

では、次はマリ・クリスティーヌ委員、お願いいたします。

#### 【クリスティーヌ委員】

本当に今日、いろいろなお話がたくさん出てきて、こういうこともあった、ああいうこともあったということがたくさん思い出させていただけのような話もたくさんありました。先ほどのお話の中で、住んでよし、訪ねてよしという言葉が私の記憶では2000年にちょうど観光立国懇談会というのが小泉総理のときに立ち上がったときに、木村尚三郎先生が作られたといいますか最初に発言されたことだったので、それこそ、先ほど佐藤さんからも話がありましたように、やはり住むことができる、まず住ということが重要であって、このPDCAサイクルというものをつくりながら都市計画、まちづくりをしていくことによって、観光というのはそれにある一つの傘として乗っかってくるようなものでもあるわけですので、やはり人々が生活できて、そして、安心・安全であるということがまず一番のどこに行っても基本だと思うのです。

私、ベニス、ベネチアが大好きですので、ヨーロッパに行けばなるべく多くベネチア経由で入っていくのですが、今回は非常に海がきれいになって、もう底まで見えてしまうぐらいに。コロナによって観光客が来なくなり、または水の交通が少なくなったもので、ベネチアに住んでいる方が生活しやすいベネチ

アに戻ったということが何より素晴らしいことではないかと私は思うのですね。

もちろん、観光はとても大事であるわけですから、ある意味ではリセットができる時代に私たちは来ましたので、では、どうやって東京に来ていただくか。東京と言うと結局、イコール日本だとは思っているのです。なぜかといいますと、必ず東京を通して世界の方々が来られるわけですから。その中で、なぜ日本に皆さんが来たいのかというと、食事がおいしい、食事も安い、なおかつ日本人はとても親切で、なおかつ礼儀正しく、そして、自分たちが心地よく過ごせる場所であるということがとても大きな印象の一つだと思うわけなのです。

今、ちょうど円が安くなっているわけですから、海外から来られる方にとってみればものすごく有利な状況になっています。スポーツの大会で例えばラグビーとかいろいろなものの中で、日本に来られる選手の方々もある意味では日本から影響されて、自分の国に帰るときに来たときよりマナーがとてもよくなって帰っている選手たちを見たりすることもあると思うのです。

私は、日本の与えられる一番大きな影響というのは、日本人の礼儀正しきであったり、こういう衛生管理に対する意識だと思うのです。日本に来るとジャパンはクリーンである、とてもきれいだから自分がそれに影響を受けて海外に帰って自分のところもそうであればいいのにと感じて動くとか。ですから、東京が世界中の方々に与えているインフルエンスというのはそういうところだと思うのです。日本がこういうことができるのに何で私たちの国ができないのだと。みんなおじぎをして、そうやってお互いに対する一つの尊敬を持てる、お互いのことを尊重し合えるような、人が並ぶことに対して、自分たちを主張しないとか、そういうことがたくさん世界の観光客の方々に影響を与えて、それが一つの日本の財産を世界に持ち帰ってもらっていると思うわけなのです。

ですので、もし東京都がするのなら、そういうものをもっと強化すべきではないかと思うのです。やはりもちろん強制することではないのですけれども、礼儀正しく相手と接したりとか、または衛生管理の中でも日本ほど公共トイレのきれいなところはない。むしろレストエリアに停まるときに車から降りてトイレを使うときに何でこんなにきれいなのだと、何でこんなにモダンなのだと、ウォシュレットまでついているような公共トイレもあるわけですから、やはりそういうことが日本をもっともっと世界の方々にポジティブな影響を与えているのではないかと思うので、そういうことを一つの都市のアメニティとして、人と人との心の通い合い、そして、礼儀であったり、衛生感覚であったり、全てを一つのセットとして考えていただいて、それを強化する東京というものがすごく重要ではないかなというように感じました。

#### 【佐藤座長】

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

あとまだ御発言をされていないアトキンソン委員、お願いいたします。

**【アトキンソン委員】**

ないです。

**【佐藤座長】**

それでは、オンラインのほうでアレックス・カー委員、いかがでしょうか。

**【カー委員】**

よろしく申し上げます。

今、私はタイの私の事務所の中にいます。大体私はいつも同じようなことを言っていると思いますが、一つは、オーバーツーリズムの問題です。今、コロナの真っ最中、オーバーツーリズムと言うともう笑われるぐらい過去の問題だと皆さんが思うようになってきたのではないかと思います。しかし、先ほど知事の話にあったように、日本が世界で一番行きたい場所だと言われていました。第1位になったぐらいで、コロナがある程度落ち着いたらどつと津波のように観光客は日本に戻るようになると思います。

ですから、インバウンドがほとんどない、ほぼゼロに近い今の時期、それこそ、オーバーツーリズムをちゃんと考えて対応できるシステムづくりが必要だと思います。残念ながら、ほとんどの観光業者あるいは行政は、大変な打撃を受けただけに、とにかく数を増やそうよと、とにかく客に来ていただきたいのだという必死な思いになってしまって、システムづくりがほとんど流されてしまったような気がしてならない。

しかし、例えば美術館、博物館、人気展覧会などの予約制度に関しては、ようやく、コロナの間は東博、また京博などは予約制度を入れました。それはあくまでもコロナ対応であって、今度、コロナが落ち着いたら、ひょっとしたら元の状況に戻るかもしれませんが、しかし、お客がゆっくりでいい環境の中で美術館を楽しめるようなシステムは絶対必要なのです。世界的にそれが発展しているわけですね。イギリス、フランス、イタリアなどなど、そういうシステムを取り入れていますので、別に国立系の美術館だけではなくて、もっと違ったところの展覧会主催にもぜひ取り入れてほしい。それにはインターネットのウェブサイトでウェブページを使ったりすると非常にやりやすい、使いやすいものです。行きたい人が行ける一方、中途半端な興味のある人たちは行けないかもしれないけれども、それはそれこそ持続的可能な観光の姿だと思います。

あとアクセスなのですけれども、ヨーロッパの町の多く、もう数百都市は、都市の中心街から車をシャットアウトし出しているのです。東京は銀座、歩行者天国は大成功なのですけれども、なぜそれを週末にしかできないのかね。それは平日でもやっていったらいいのではないのでしょうか。逆に銀座はそれでもっと元気になると思います。新宿、原宿、表参道など、そういうことは十分考

えられまして、残念ながら、「不便イコール経済が駄目になる」という神話が行き続き、一昔、二昔前の感覚が強いようですけれども、今の時代は逆ですね。車をシャットアウトした大都会の中心街が経済発展をしています。お客が歩くことによってじっくりストリートライフが活発になってきますし、お店に入っ  
ていたり、喫茶店を使ったりします。

また、今日の会議には度々話に出ている、「住んでよし、訪ねてよし」というテーマなのですけれども、これはインバウンド云々、オーバーツーリズム云々ばかりではなくて、東京都民のためにもなるのですね。町がもっとユーザーフレンドリーになることです。ちなみに、今日は日本文化を世界に発信しようとか、日本文化が訪れた方にどんな影響を与えたかという話は例えばマリ・クリスティーヌさんが先ほどおっしゃいましたけれども、それは確実にあります。

一方、海外からたくさんの方が日本に来るようになったことによって日本文化に対しての非常にいい意味での影響が随分あったと思います。例えば星野リゾートのようなホテル、残念ながら日本の従来の観光産業の中から生まれるものではなかったです。バリやタイのアマンなどの影響を受けて、そして、それに日本の従来の伝統文化を取り入れたものが星野さんだと私が解釈しています。その意味で、海外での例えば車を減ら都市計画も、先ほど石井さんの話に出た都市照明、そういうものをやはり学ぶ必要があると思います。

そして、景観です。観光客が来るのはよろしいけれども、景観は残念ながら依然としてごみごみ、がやがやしているわけですね。例えばあと数年したら横浜で国際園芸博覧会が開催されると聞いていますけれども、その前に、現在進んでいる神宮外苑再開発計画では、100年以上経っている古いすばらしい木を1,000本ほど伐採するのですね。そんなことが進んだ先進国ではなかなか聞けない話であって、そういうものはやはり東京の景観、東京の文化のエッセンスにかかるとのことです。外国から来た人たちにとっても大事ですけれども、住んでいる都民にとっても大事な問題ですね。道路を広げるなどの理由で木を切ったり枝を落としたりすることが盛んに行われているのは、東京ばかりではないですけれども、日本全国の課題として考え直さなければいけないと思います。

また、すみません、アクセスの話に戻りますけれども、先ほどベニスの話が出ましたが、ベニスは観光客が減った後、今度、戻ってくるだろうと予想して、今は、1日帰りの客に、忘れたが10ユーロぐらい町なかに入るためのチケットいるわけですね。つまり、オーバーツーリズムの問題を放っておくわけにしないで、アクセスシステム、クラウドコントロールシステム、景観のレベルアップ、そういうことを考えるいい時期ではあると思いますので、それはぜひ東京都のほうで考えていただけたらうれしいと思います。

以上です。どうもありがとうございます。

**【佐藤座長】**

ありがとうございました。

アトキンソン委員、もうよろしいですか。

それでは、一応委員の御発言は一巡しましたけれども、今までの委員の御発言をまた踏まえて、まだ言い足りないこととかありましたら、あるいは1回目のときにちょっと言い忘れたというようなことがありましたら、御発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

それでは、玉井委員、お願いいたします。

それでは、玉井委員、お願いいたします。

#### 【玉井委員】

先ほどリーサさんのお話にもありましたけれども、SDGsをやっていくときに減らすという概念だけでいくと、やはりいろいろな不都合も出てきてしまう。これは私がホテルをやっていたときもそうだったのですけれども、例えば食材を無駄にしないためにホテル内ではゼロになる仕入れ方法を採用しても、それ以前の取引先の段階で無駄な事が起こってしまうというように、トータルコストという概念が非常に重要になってきます。これは先ほどの質を落とさないということも含めて、ピンポイントのコストだけを見るのではなくて、トータルとしてどのようにコスト削減できるのか、あるいは環境に良いのかということを考えていく必要があります。こういう視点も非常に重要になり、そのための指標も必要になりましょう

#### 【佐藤座長】

では、次はマリ・クリスティーヌ委員、お願いします。

#### 【クリスティーヌ委員】

今の話のちょっとつながりなので発言させていただきますけれども、例えば東京の観光SDGsというのをつくるということになると、観光行動についてどういうSDGsにしましょうかということのほうが見えやすいのではないかなと思うのですね。

なぜかといいますと、もうどこへ行ってもSDGsであって、各企業、各お店、各団体、そして、みんなSDGsなのです。東京都もSDGsをやっているわけなのですが、東京の観光SDGsは例えばごみの分別はこうですとか、道を歩いているときはこうしましょうとか、それこそ、区によってはたばこを吸ったらいけないという区もあったり、罰金になっているところもありますし、そういうことを集めた形での東京観光SDGsをつくり上げていくのならばいろいろな要素がそこに入ると思います。先ほどアメニティの話も出ましたが、やはりマンダリンオリエンタルに泊まったりペニンシュラに泊まっていてアメニティが出てこなかったら、きっとお客さんは、先ほど話もありましたが、来なくなってしまうわけですので、そういうことを言っているのではなくて、いろいろな層の方々が東京に観光で来られているわけですから、それこそ自家用機で来られている

方が意識するSDGsと一般的に中流階級の方々に来られている方とか、または、それこそバックパックでハイキングで来ている若者たちもいますし、いろいろな層の方々が来られているのを想定した上でその観光SDGsを東京で打ち出していくのがいいかと思います。

**【佐藤座長】**

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

石井委員ですね。お願いいたします。

**【石井委員】**

恐れ入ります。今のSDGsの話を伺っていて一言付け加えさせていただければと思いますが、日本ではSDGsという言葉が非常に一般化して、また、先ほどお話もあったように子供さんを対象にしたワークショップとか、学校でもSDGsを教えるというような取組が非常に進んでいるのは素晴らしいことだと常々拝見しているのですが、SDGsという言葉すら知らないという観光客も実は世界でたくさんいて、現に私の本拠地としておりますフランスでも、もちろん環境に対する意識は非常に皆さん、高いのですが、SDGsという言葉は知らない。それはSDGsという言葉に対する啓蒙があまりされていないからで、かといって、その言葉を知らないと環境に関心がないわけでもないです。SDGsという言葉だけが先行することに重きを置いてしまって、本当のメッセージが伝わりにくい。そのSDGsが分からないとそれが何を言いたいのか分からないというのは、いろいろな現象が起きてしまうことにも注意をすべきではないかなというようにちょっと思いましたので加えさせていただきました。

**【佐藤座長】**

ありがとうございました。

ほかに。

田中委員、お願いいたします。

**【田中委員】**

短く1点だけ。東京都のほうから最初、お示しいただいた資料の中で、今回一番興味深いと思ったのが、町田の事例です。新しい文化を今、創り出して、これをコンテンツにするという考えですね。お祭りとか文化とか伝統とか歴史というのは私もずっと考えてきたのですけれども、今、これから起きていくもの自体も文化になる、トレンドの発信になるみたいなところを考えると、若い人たちが考えている、取り組んでいるアニメ、漫画、ダンスなど、世界に通じるコンテンツも注目されます。今や、日本のエンターテインメントはアジア諸国に負けているのではないかといった声も聞かれるところですが、日本の若者が今、取り組んでいること、日々考えていること自体を情報発信し、SNSでも話題にしながら発信されると、その現地に行ってみようという観光が生まれるか

もしれないです。送り手である主体は若者だけではないかもしれないのですが、あるエリアで取り組んで活動している人たち、流行の発信者のような方々を主役に何かできる点もあるのではないかと考えています。

**【佐藤座長】**

ありがとうございました。

ほかにかがでしょうか。

それでは、時間の関係もございますので、この辺りで議論、意見交換は終わりということにさせていただきます。

本日は委員の皆様から多様な、かつ貴重な御意見を賜り、ありがとうございました。不慣れな司会進行でありましたけれども、委員の皆様の御協力で内容の濃い意見交換ができました。心より感謝を申し上げます。

本日、委員の皆様からいただいた御意見につきましては、東京都の来年度予算における東京都観光産業振興実行プラン関連施策のバージョンアップと東京都観光産業振興実行プランそのものの改定作業につなげていただくよう、事務局に対してお願いをしたいと思います。

それでは、事務局にお返しをいたしますので、連絡事項等ありましたらお願いをいたします。

**【築田観光部長】**

本日は貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。委員の皆様より御提案いただきました内容等につきましては、今後の観光振興施策の推進に生かしてまいりたいと考えております。

次回は10月の開催を予定しておりますので、また御連絡のほうをさせていただきます。

事務局からは以上でございます。

**【佐藤座長】**

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。